

# すわみつえ通信

No.394 2026年3月9日

日本共産党鴻巣市議会議員  
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7  
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151  
携帯: 080-5039-2785  
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp  
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



“TAX the RICH”を世界の  
共通スローガンに!

## 文教福祉常任委員会にて

3月5日(木)・6日(金)に文教福祉常任委員会が開催され、付託された議案6件(右記①～⑥)を審査し採決を行いました。

すわみつえ市議は、①②⑤に反対をしました。委員会としては賛成多数で可決しました。

## 【文教福祉常任委員会に付託された議案】

- ①議案第19号 鴻巣市特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例
- ②議案第20号 鴻巣市特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
- ③議案第24号 令和7年度鴻巣市一般会計補正予算(第10号)
- ④議案第25号 令和7年度鴻巣市介護保険特別会計補正予算(第3号)
- ⑤議案第30号 令和8年度鴻巣市一般会計予算

## 議案第19号と議案第20号の問題点を質疑し、反対討論を行いました

本条例は、鴻巣市が2024年8月から試行的に行ってきた「こども誰でも通園」の2028年4月本実施に向けたものです。

## 反対理由

国は、こども誰でも通園は、『全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらず形での支援を強化するため、現行の幼児教育・保育給付に加え、月一定時間までの利用を可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付』としており、その理念を否定するものではありません。

当制度は保護者のリフレッシュにはなりますが、それはすでに制度としてある「一時預かり事業」で十分その意義を果たせます。一時預かり事業の拡充を行うべきです。

保育でいちばん重要なことは、こどもの命と安全を守ることです。本議案で示されている保育士の配置基準は通常の保育士の約半分であり、誰の目からみても質が下がることは明らかです。市が責任を持ち、利用する乳児の安全を守る制度とすべきです。

## = 制度内容は =

- 入園していない6カ月児から3歳未満児
- 月10時間1日あたり8時間を上限に1時間単位で利用が可
- 預けたい施設を選び、システムで予約
- 利用料は概ね1時間300円
- 広域利用が可(他の自治体施設の利用が可)
- 鴻巣市は3施設で提供  
「子育て支援センター(生出塚保育所)」「川里ひまわり保育園子育て支援センター」「めぐみの木こども園」

3月鴻巣市議会定例会  
すわみつえ市議  
一般質問

すわみつえ市議の一般質問は3月18日(水)10時頃から行います。ぜひ議会の傍聴を宜しくお願いいたします。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

春雷やならず者跋扈する  
世界かな  
瑠璃子

【俳句コーナー】

ばっこ



## 2026国際女性デー 日本初「女性の休日」日本でも

3月8日は国際女性デー。世界の女性が「パンと平和と権利」を求めて立ち上がる日です。国際女性デーを前後して今年も、アイスランドの9割の女性が仕事や家事を一斉に休んだ「ストライキ」＝「女性の休日」を日本でも！という動きが広がっています。

北欧アイスランド発祥で、家事も仕事も休もうと呼びかけられた初めての日本版「女性の休日」アクションが3月6日から、始まりました。8日の国際女性デーに前後して47都道府県3000カ所以上で取り組まれます。【しんぶん赤旗日曜版 3月8日号】

**「女性の休日」とは** 1975年10月24日、アイス

ランドの女性の9割が一斉に家事や仕事を休みました。

国連総会が75年を「国際婦人年(国際女性年)」に定めたことを受け、全国から約300人が集まった女性会議で決めたストライキでした。「休日」と言い換えたのは、「ストライキ」に抵抗を感じる女性たちも参加できるようにするためです。

当時、家事や育児は女性の仕事とされ、働く女性の賃金は男性の半分ほど。国会議員の女性比率も5%でした。女性たちのストライキで保育園も閉まり、男性は子どもを職場に連れて行かざるを得ませんでした。女性がいなければ社会が回らないことを証明しました。その日は金曜日だったことから、男性たちは「長い金曜日」と呼びました。



「女性の休日」は、50年目の昨年を含め7回実施されています。「女性の休日」を機に、アイスランドは法制度を整備し、16年連続でジェンダー平等世界一(世界経済フォーラム公表のジェンダーギャップ指数)。いまま、完全な平等に向けて歩み続けています。



50年前の「女性の休日」を振り返ったドキュメンタリー映画(↑映画)が日本でも公開され、ロングラン上映されています。「女性の休日」を描いた絵本『本当にやる! できる! 必ずやる!』も出版。(←表紙、→絵本から)

